

安曇野民報ほりがね

やすひこ

うすい、泰彦通信

9月議会報告

一般質問

自主検査の充実先進国として当然
従来の感染対策やワクチン接種だけでは不十分

菅政権の無為無策とオリンピック・パラリンピックの逆行により感染爆発と医療崩壊を引き起こしました。安曇野市でも8月だけで146人の感染者となり、それまでの1年余の感染者数を上回りました。

9月議会の一般質問で臼井議員は、感染抑止のための大規模で徹底的な検査、エッセンシャルワーカーへの定期的検査を提案しました。また、市民主体の巡回バスの運行を提案しました。

国 県任せの冷たい答弁

臼井 子どもや要介護者がいて、自宅で療養せざるを得ないケースへの対応を伺う。

保健医療部長 県にお任せである。

臼井 子どもから家族への感染不安があり、子どもが様々な活動を制限され、保育士や教職員の負担も大きい。大規模で徹底した検査を行い、感染抑止と安全を保障すべきではないか。

保健医療部長 PCR検査は法定検査で結構だ。

臼井 信濃毎日で先日、

国立病院機構三重病院長の谷口清州氏が「従来の感染対策やワクチン接種だけでは不十分。自主検査の充実は、先進国として当然。大切な人にうつしたくない人たちに検査の機会を提供するのが行政の役目」と述べている。市長は昨年6月議会の答弁で、「科学的根拠を持たない」と言われた。科学者、専門家の意見を聞いて、市民の命と健康、暮らしと営業を守るために国・県にしっかり要望

し、市独自でも必要な対策を取る決意を伺う。

市長 私のメッセージを発出し、公共施設の利用制限など、対策を強化している。事業者支援に取り組んでいる。

臼井 政府の無為無策により感染拡大の山を繰り返す土俵の上では、市民の命と暮らしは守れない。政府の「原則自宅療養」方針の撤回を求めるべきだ。命の切捨て、究極の自己責任の方針だ。

市長 患者数が一定のラインを超えた場合に優先順位をつけることは理解できる。



あづみんの充実とともに

コミュニティ方式の

巡回バスの運行を提案

コミュニティ方式は

正確な利用者数を把握して計画する

白井 5月に市地域公共交通協議会は「巡回バスの運行はしない」と結論を出した。利用者数について、コミュニティ方式では、対象地域の全住民を対象に正確な利用者数を把握して運行計画を立てるが、市の結論の根拠を伺う。

政策部長 市内で行った聞き取り調査の結果を基に、統計的な手法で算出した推計値である。地域主導型バスの運行では、議員提案の調査方法も考えられる。

コミュニティ方式は
全地域に公平

白井 公平性について市の論拠を伺う。

政策部長 本市では、デマンド交通を運行して、市内全域の移動手段は確



コミュニティ方式の巡回バスとは

松本市の地域主導型公共交通(経費の9割補助)を例に

運営の主体は

1つの路線を設けてバスを走らせたいという願いを持つ複数の地域の住民が運営主体をつくる。

運営主体の団体は

規約や役員名簿、事業計画書、予算書などを提出して、市長の認可を受ける。

事業計画書とは

住民の意向を調査し、運

行事業者、期間、日数、便数、路線、停留所位置、時刻表、車両種類、運賃、利用促進対策などを定める。

運行までの流れは

1年間以上の試行運転をして、一定基準を満たして初めて本格運行に移る。本格運行も毎年検証され、一定の基準を満たさなければ、廃止も検討される。

あづみんと巡回バスを一体的に運行すべき

白井 コミュニティ方式は全地域に門戸が開かれ、公平性が担保されている。

保されており、利用機会の均等が担保されている。

白井 あづみんには「自宅まで来てくれる」というよさがあり、巡回バスには「運行時間が正確で予定が立てやすい」「予約しなくてよい」というよさがある。あづみんが市内全域の交通空白区を解消する役割を果たし、巡回バスは運行時間幅(早朝、夕方)と定時制の空白を解消する役割を担う。それぞれのよさを生かした一体的な運行方針

を明確にすべきでは。政策部長 時間の正確性については、あづみんについていきたい。

令和2年度一般会計決算質疑

総合的に 財政投入を
防犯柵維持管理、緩衝帯整備
有害鳥獣捕獲・駆除、狩猟者確保

白井 1 現状認識は

猿は防護柵を超えて、里側に棲みついている。人家への被害、農作物被害が広がり、山麓では野菜等の作付けが厳しくなっている。

モンキードック事業では、高齢化や頭数減による活動量の減少がある。

狩猟者確保事業では、この4年間平均4人。(令和2年度新規狩猟者は前年度比1/3)

2 今後の対応は

①今やっているモンキードック事業、防護柵、捕獲・駆除、緩衝帯整備、狩猟者確保の事業をより総合的に進めることが必要では。

②各事業のレベルを上げる予算増が必要では。モンキードック管理者がより意欲を持てるレベルにすべきだ。



山麓住民が設置し、管理している電気柵

防護柵・電気柵の維持管理の補助金を思い切つて上げ、山麓の地域の方の労苦に応え、その労苦を全市民に知らせ、できればボランティアも募って維持管理業務を行ったらどうか。

農林部長 大型おりの設置で大幅に捕獲が進んだが、捕獲だけでは対策にならない。捕獲した猿にGPS装置を付けて効果的な追い払いにつなげた。GPSの装着は簡単ではないようで、現在1頭のみ。現状では大きな効果は望めない。予算増が必要と考える。



被害がさらに大きくなる前に経費をかけることに意味がある。5年、10年計画で進めていくべきでは。

農林部長 総合的な対策を実施してきた。地域の連携や理解が不可欠である。当市の支援内容は、県内他市町村と比較して充実している。

白井 (支援内容は)安曇野市の実態に応じて考えるべきだ。